

金沢版コンパクトシティのすすめ
—30年後の金沢を見据えて—

(案)

平成27年8月

K. C A T (金沢の都市と交通を考える会)

金沢版コンパクトシティのすすめ -30年後の金沢を見据えて、多極分担連携による集約型都市構造を目指す-

●提案の背景

- 金沢市の総人口は、今後30年で約1割減少し、少子高齢化が進む。
2010年：462,361人 → 2040年：417,156人、2010年より▲45,205人
(出典：人口問題研究所)
- 中心市街地の人口密度は、この20年間で約2割減少し、低密度化が進み魅力や活力が衰退。
1990年：93.7人/ha → 2010年：73.8人/ha、1990年より▲19.9人/ha
(出典：国勢調査)
- 一方、郊外市街地においても少子高齢化が進み、空地や空き家が増加する。
- 都市経営の観点からも、公共施設等の維持管理費が増大すると考えられる。
- こうした社会背景を踏まえ、金沢版コンパクトシティを目指すべきである。

●将来都市像

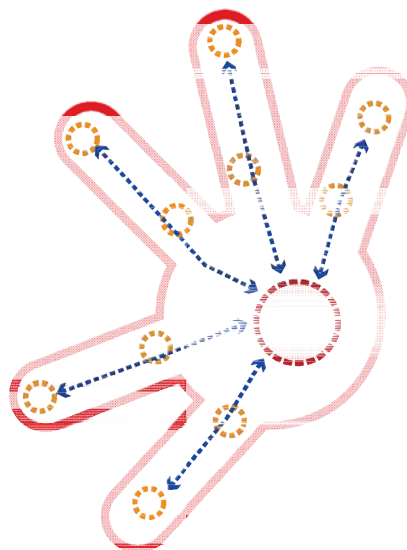
- 金沢都市圏を対象とし、金沢を中心として周辺の都市も含んだコンパクトシティ

『多極分担連携による集約型都市構造』を目指す。

- 金沢中心市街地を都心核、白山市、野々市市、内灘町、津幡町の中心市街地を広域拠点、医療・福祉・商業・居住等の多様な機能が集積し、歩けるまちを形成する地域を生活拠点とし、それらを公共交通で結び、多極で都市機能を分担連携しながら、集約型都市構造を目指す。

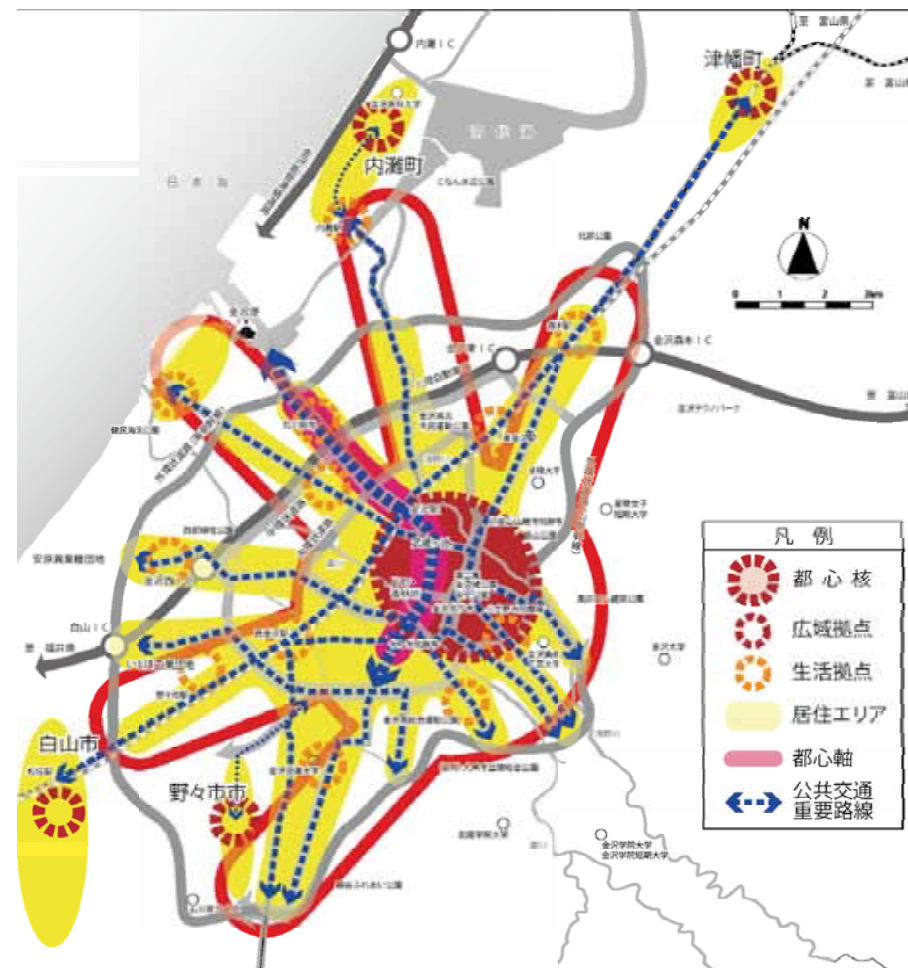
●ランドデザイン

- コンパクトシティを推進するため、「金沢版フィンガー・プラン」を策定する。
- フィンガー・プランとは、デンマークのコペンハーゲンで取り入れられた都市戦略で、5本のSバーン（近郊電車）を5本の指に見立て、このSバーン沿いに市街地を展開し、それ以外の地域では土地利用の規制を強め、大規模な緑地を確保するというもの。
- 金沢においても、公共交通重要路線を指に見立て、その指（軸）沿いに都市的土地利用の集積を図るものとする。
- 低密度な土地利用から脱却し、車から公共交通への転換を図り、金沢版のコンパクトシティの実現を図る。



●金沢版フィンガー・プランを実現するための3つの戦略

- 土地利用戦略 ひと・もの・こと集積がつくる強靱な都市構造への転換
- 景観戦略 作法として守り育てる金沢の魅力と景観
- 交通戦略 全ての人にやさしく便利なネットワークの形成



図：金沢版フィンガー・プランのイメージ図

金沢版コンパクトシティのすすめーひと・もの・ことの集積がつくる強靱な都市構造への転換ー

●土地利用戦略

自動車に依存せず生活できる都市構造への変革の第一歩を!!

1. 基本的な方針

- ①都心核、広域拠点、生活拠点など段階別の都市機能の拠点形成を推進
 - ・各拠点レベルと地域特性に合わせた集約誘導施設の明示
 - ・まずは公共施設のいたずらな郊外立地の自粛徹底と機能複合による効率化の推進
- ②市街地全体に拡散した居住分布の改善 → 公共交通重要路線沿いに居住人口密度をUP
 - ・車に頼らず生活できるエリアの明示（終の棲家の選択条件）
 - ・生活に必要な都市機能の確保（生活拠点等との一体的施策展開）
 - ・誘導する世帯タイプの明示と、特性にあった住宅の供給支援（公営住宅政策の見直し）
- ③大規模商業施設の適切な立地コントロール
 - ・都心軸の再生（ハレの買い物は中心部でという生活スタイルに）
 - ・郊外型店舗との区別 → ホームセンター等の車が必要な施設は郊外で展開
- ④不動産流通の活性化による空き家や低未利用地の解消
 - ・土地利用誘導を支援する税制や支援策の導入（例：中心部の駐車場利用への課税、郊外部での戸建て宅地の大規模化優遇 等）
 - ・まちなか再生条例（仮称）の制定による施策制度の総合化
- ⑤低未利用地を活用した『コミュニティファーム』の導入推進
- ⑥防災性の向上（建物の耐震化 等）

2. 各拠点やその他の地域の方針

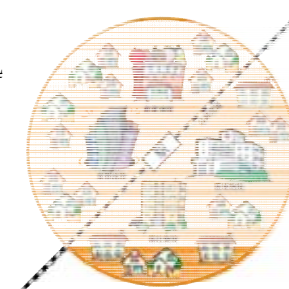
- 1) 都心核（中心市街地）
 - ・行政、医療、福祉、商業、業務、教育、文化、居住等の都市機能の集積を図る。
 - ・大学を活用した賑わい創出 → 「学都金沢まちなか拠点整備構想」
 - ・「金沢らしさ」の強化（金沢まちなかデザインコードの設定、文化財の保全）
- 2) 広域拠点（白山市、野々市市、内灘町、津幡町の中心市街地）
 - ・広域的機能分担と地域文化・個性の維持創出
- 3) 生活拠点
 - ・医療・福祉・介護施設（高齢者対応）と日用品販売店を中心に形成
- 4) 近郊・郊外市街地
 - ・農業の産業としての確立（あるべき土地利用の安定化といたずらな開発抑制）
 - ・市民農園、地域農園による遊休農地や空地の活用（大規模コミュニティファーム）
 - ・工業団地などの産業拠点の集約化と環境保全（農業との調和）
 - ・広域的な土地利用調整（周辺都市を含めた計画的土地利用の推進）
- 5) 中山間地
 - ・農・林業の産業としての確立（あるべき土地利用の安定化）
 - ・中山間地保全のための支援制度の創設

○生活拠点の形成

- ・医療、福祉、商業、居住等の必要な都市機能が集積する拠点を形成し、公共交通重要路線でネットワーク化

<候補地>

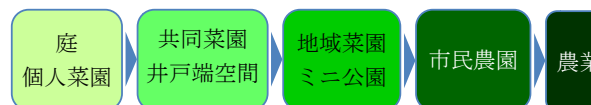
交通結節点：森本駅、東金沢駅、西金沢駅の周辺や
主要バス停を中心に
主要施設の周辺：大規模病院、地域商店街、
支所等の公共施設等を核に検討



○『コミュニティファーム』による土地使いと人づくり

人口減少にともなう空き地の増加に対して、
「緑の活用による土地の有効活用」と
「緑を介したコミュニティの再構築」

<「緑」の段階的イメージ>



コミュニティファームの事例

○「学都金沢まちなか拠点整備構想」

コンベンションホール+大学サテライトキャンパス

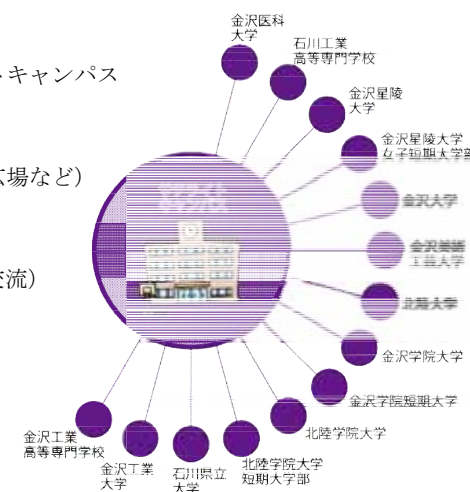
- ・環状大学都市の要として両機能を併設
(候補地：金沢市文化ホール周辺や
金沢城公園新丸広場など)

<サテライトキャンパス>

- ・市民の生涯学習機能
- ・まちの賑わい（市民、学生、教職員の交流）
- ・大学の連合体が運営主体

<コンベンションホールへの相乗効果>

- ・恒常的な施設利用の確保
- ・大学連携による学会誘致の活性化
- ・留学生等による国際化への対応



金沢版コンパクトシティのすすめ ー作法として守り育てる金沢の魅力と景観ー

●景観戦略

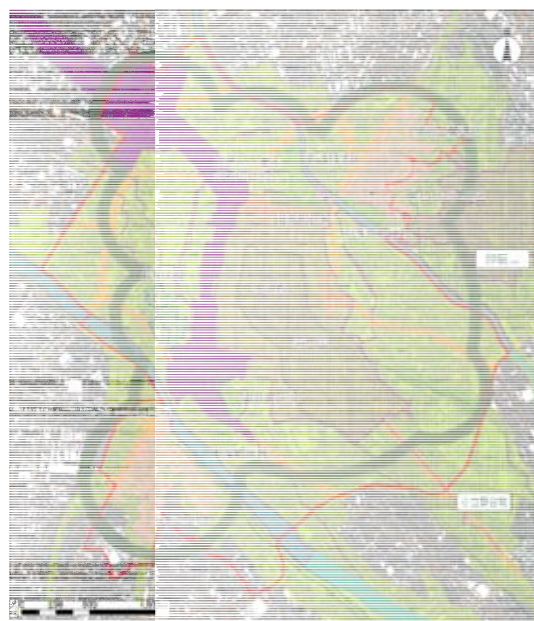
「暮らし方の作法」ー百年後の世界遺産を見据えてー

1. 意義

新幹線時代において金沢の魅力を高めるため、金沢の代表的な景観エリアである重要伝統的建造物群保存地区（4地区）、こまちなみ保存区域（9区域）、景観地区（長町）と重要文化的景観選定区域を守り、その周辺地域も一体となって付加価値を高め、都心に住むことがステータスとなるような『金沢版コンパクトシティ』を目指す。また、景観とは「市民の暮らし」そのものであり、市民の暮らし方の作法の見える化を図り、景観意識を醸成していく。

2. 基本的な方針

- ①金沢を代表する景観エリアを大切に保存する。
- ②景観エリアを中心とし、それらの周辺を景観誘導エリア（バッファゾーン）と設定し、町並みや建物、住まい方の景観誘導を図る。
- ③景観誘導を図る手法としては、「暮らし方の作法」（金沢版パターンランゲージ）を策定し、見える化を図る。
- ④「暮らし方の作法」の伝え方としては、親から子や祖父母から孫への口伝による教育が大切である。また、新しい住民にも作法を学んでいただく。
- ⑤「暮らし方の作法」を踏まえ、良好な景観形成に貢献する建物については、まちなか住宅奨励金の上乗せを図る。



図：景観誘導エリア図

凡 例	
	中心市街地・中法
	重要伝統的建造物群保存地区(4地区)
	景観こまちなみ保存区域(9区域)
	景観地区(長町)
	重要文化的景観選定区域
	景観形成区域・伝統的景観保存区域
	景観形成区域・伝統的景観調和区域
	景観形成区域・近代的都市景観創出区域
	丘陵・台地
	景観誘導エリア

【暮らし方の作法 守るべき九箇条】（金沢版パターンランゲージ）

第一条：地形



- 2つの河川と3つの台地という地形を活かす
- 地形の改変を避ける

第二条：道路・広見



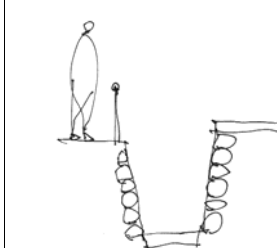
- 魅力的な歩行空間の創出
- 広見の保全・活用
- 電線類地中化の推進

第三条：街割・敷地



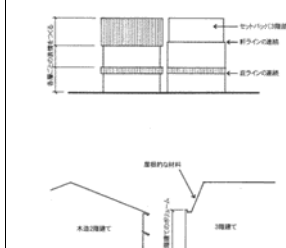
- 伝統的な街割りの継承
- 敷地や路地をしっかりと残す
- 敷地回りの緑化、修景

第四条：用水



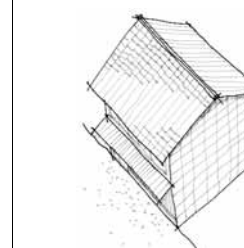
- 用水の保全、開渠化
- 親水空間としての活用
- 惣構堀の玉石積の復活

第五条：高さ



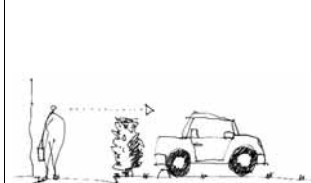
- 周辺の建物との調和
- ヒューマンスケールを感じ
る高さとする

第六条：意匠



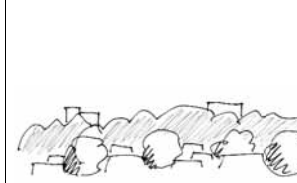
- 歴史的な意匠を守る
- 勾配屋根と黒瓦、板塀、和室
- 金澤町家を活かした修景

第七条：駐車場



- 屋外駐車場の目隠し修景
- ビルトイン駐車場
- カーシェアや共同駐車場

第八条：緑化



- 斜面緑地の保全
- 民有地緑化の推進
- 各戸に高木、坪庭、前庭

第九条：コミュニティ



- 細街路の井戸端会議
- 除雪コミュニティ
- 夜警団

金沢版コンパクトシティのすすめ - 全ての人にやさしく便利なネットワークの形成 -

●交通戦略

まちなかから広がる金沢版「新しい交通システム」の確立

1. 基本的な方針

- ①既存の交通インフラ（鉄道・バス）を最大限活用し公共交通ネットワークを拡充する。
- ②郊外（＝各フィンガー）から都心部（＝手のひら）への直達性と定時性を向上させる。
- ③段階的に公共交通の機能を向上させ、ひとと公共交通中心の交通体系を確立する。

2. 金沢都市圏において導入する LRT/BRT に求められる要件

- 【**安全性**】乗客や周辺交通に対して安全であること
- 【**定時性**】時刻表から遅れないこと
- 【**速達性**】できるだけ速く行けること
- 【**乗換利便性**】他機関との乗り換えがスムーズであること
- 【**大量性**】多くの利用が見込めること
- 【**バリアフリー**】移動に際して障壁や抵抗が少ないこと
- 【**シンボル性**】「まちの風格」に合った上質な交通機関



3. 段階的な公共交通の整備イメージ

Step1 バス路線の定時性・輸送力の強化と BRT 一部導入

- **[定時性向上]** 金沢駅～野町駅間のバス専用レーンの時間拡大
- **[LRT・BRT]** 需要の見込める路線への連節バス導入による輸送効率化・シンボル性向上
- **[待ち時間整序化]** 主要路線におけるダイヤのわかりやすさの向上、団子運転解消
- **[運賃]** 鉄道と市内路線バスの乗継割引
- **[ターミナル]** 主要駅・バス停での乗り継ぎ拠点整備（待合環境向上）

3年以内に実施



公共交通優先のまちを支える総合交通戦略

- **[歩行者]** まちなか案内サイン、まちなみ修景整備等
- **[自転車]** 自転車走行環境の充実、公共レンタサイクル「まちのり」の利用推進
- **[自動車]** カーシェアリング、都心部流入抑制策、公共車両優先信号
- **[物流車両]** 共同荷さばき場、共同配送システム
- **[ライフスタイル変革]** クルマに過度に依存しないライフスタイルへの誘導

各段階で随時実施

Step2 都心部の LRT 整備による公共交通充実

- **[BRT⇒LRT 整備]** 県庁（金沢港方面）～金沢駅～野町（～石川線）
- **[輸送力増強・輸送効率化・シンボル性向上]** 公共交通重要路線への BRT（連節バス）導入拡大
- **[定時性向上]** 野町駅～金沢駅間を終日「公共交通専用レーン」化
- **[P&R・ターミナル]** 近郊部各方面の拠点における P&R、P&BR 駐車場と乗り継ぎターミナルの確保



P&R 拠点施設のイメージ (仏・グルノーブル)

Step3 都心部のトランジットモール化とフィンガー・ネットワークの完成

- **[LRT 路線拡充]** 都心部から各方面への LRT 路線整備
- **[BRT 路線拡充]** LRT を補完する BRT、フィーダーバス路線の整備
- **[トランジットモール]** 都心トランジットモール化
- **[P&R・ターミナル]** 郊外拠点における総合ターミナル（P&R、バス乗継、商業複合施設）の整備
- **[運賃]** ゾーン料金制の導入



トランジットモールのイメージ (仏・グルノーブル)

2020 年までに実施



2040 年までに実施



第 14 回 K. C A T フォーラムについて（参考資料）

1. 第 14 回 K. C A T フォーラムの概要

- 日 時：2015 年 1 月 10 日（土）13：00～16：50（12：30～受付開始）
- 会 場：近江町交流プラザ（近江町いちば館 4 階 集会室）
- 参加者数：58 名（大学生、若手行政マン、若手建設コンサルタント、K.CAT メンバー等）
- 主 催：K.CAT（金沢の都市と交通を考える会）
- 開催主旨：
- ・金沢市の総人口は、今後 30 年間で約 1 割減少し、少子高齢化が進むと予測されている。また、中心市街地の人口密度は、この 20 年間で約 2 割減少しており、低密度化が進み魅力や活力が低下している。
 - ・一方、郊外市街地においても少子高齢化が進み、空き家や空地が増加している。都市経営の観点からも、公共施設等の維持管理費が増大すると考えられる。こうした社会背景を踏まえ、金沢版コンパクトシティを目指すべきと考える。K.CAT では、そのタタキ台を検討してきたので、市民や学生の皆さんと共に 30 年後の金沢を考えたい。
- プログラム：
- 13：00 開会・挨拶・主旨説明（10 分）
- 13：10 「金沢版コンパクトシティのすすめ」の説明（20 分）
- 13：30 ワークショップ（1 時間 40 分）…土地利用・景観・交通×2＝計 6 グループ
- 15：10 休憩
- 15：20 各グループ発表・投票（1 時間 20 分）
- 16：40 コメント、総括
- 16：50 閉会



2. ワークショップの結果

□各グループの主な提案事項

分野	グループ	主な提案事項（キーワード）
土地利用	Aグループ	・空地を活用した「コミュニケーションファーム」（まちなかの空地を緑地や菜園・農園に変えていく） ・とりあえず行きたくなる街なか（とりあえず街なかに行く習慣づけ） ・お年寄りと若者をセットで！（親との近居、医療や福祉との関係）
	Bグループ	・金沢まちなかステータス（都心回帰を図るためのステータス向上） ・シェア／都市機能の充実／ストックの活用／人の集まる場所／公共施設の有効活用／歩行者天国／傘がなくても回遊できる／都心軸沿いのビル上層部の居住空間化（職住近接）／通りとしての連続性／世代のミックス…今までの都心軸のイメージを変えていく
景観	Aグループ	・三世代で住み継ぐコンパクトシティ金沢（親と同じ町内の家や土地を購入する際に優遇、暮らし方の作法のルール化、子世代の戸建居住・親世代のマンション居住…など） ・景観とは「市民の暮らし」である
	Bグループ	・景観を守るためには人の居住が大切（空地・空き家の活用→居住・仕事の場の整備→若者・学生の居住や仕事→賑わいが人を呼び込む） ・現代の人が忘れてしまった暮らしに対する姿勢の見える化 ・暮らし方の作法に加える具体案（回遊性向上／ハウスメーカーの取組／サテライトキャンパス設置／若い人が住みたくなるまちなか整備、昼夜でまちの姿が異なる／文化施設を活かす…など） ・作法の伝え方（口伝／幼少からの教育／作法の再確認…など）
交通	Aグループ	・L R Tの運営形態、マイカーとの関係性、土地利用との関係性など ・L R Tが必要に関する議論が必要…など
	Bグループ	・昔の市電ネットワーク（まちの骨格は変えない） ・中心部と郊外部のターミナル機能の整備、バスルートの再編 ・居心地の良いバス停の整備…など

□プレゼンテーションの様子

